

「地方自治と私たち」

本単元で育成する資質・能力

自ら考え判断する力, 高い志, 協調性・適応性・コミュニケーション能力,
粘り強さ, 情報収集能力・読解力

- 1 日時 令和元年11月26日(火) 5校時
- 2 場所 第1社会科教室
- 3 学級 第3学年1組 28名(男子15名 女子13名)

単元について

本単元は、中学校学習指導要領（平成29年）社会〔公民的分野〕2内容 C私たちと政治（2）民主政治と政治参加 に基づき設定する。

(2) 民主政治と政治参加

対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識を身に付けること。

(エ) 地方自治の基本的な考え方について理解すること。その際、地方公共団体の政治の仕組み、住民の権利や義務について理解すること。

イ 地方自治や我が国の民主政治の発展に寄与しようとする自覚や住民としての自治意識の基礎を育成することに向けて、次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 民主政治の推進と、公正な世論の形成や選挙など国民の政治参加との関連について多面的・多角的に考察、構想し、表現すること。

中学校学習指導要領（平成29年告示）解説社会編によれば、この単元は「個人の尊重と法の支配、民主主義など、法に基づく民主政治の基本となる考え方に関する理解を基に、民主政治の推進と、公正な世論の形成や選挙など国民の政治参加との関連について考察、構想し、表現することができる適切な問い」を設け、「それらの課題を追究したり解決したりする活動を通して、地方自治や我が国の民主政治の発展に寄与しようとする自覚や住民としての自治意識の基礎を育成すること」を主なねらいとしている。

この中項目で身につける「知識」に関わる事項では「地方自治の基本的な考え方について理解すること。その際、地方公共団体の政治の仕組み、住民の権利や義務について理解すること」が挙げられている。このことは「住民自治を基本とする地方自治の考え方について理解できるようにすること」を意味しており、「地域社会における住民の福祉は住民の自発的努力によって実現するものであり、住民参加による住民自治に基づくものであること」を理解させることが重要である。また、「知識」に関わる事項では「地方公共団体の政治の仕組み、住民の権利や義務について理解すること」と挙げられており、身近な地方公共団体の役割について取り上げることで、地域社会への関心を高め、地方自治の発展に寄与しようとする住民としての自治意識の基礎を育成することも重要視されている。

昨年、平成30年7月に熊野町では平成30年7月豪雨で大きな被害を受けた。直接的、間接的に影響を受けた生徒も多い。そうした中で、熊野町では災害対応や「防災・減災」についての取組をしてきており、このような活動では住民の理解、参画が重要である。この取組は、地方公共団体がどのような役割を担い、住民とどのような関係を築いているかを理解していくことで、住民参加の地方自治についての理解を深めることができると考えられる。

また、中学校学習指導要領（平成29年）社会においては「持続可能性」が重視されており、持続可能な社会の形成者を育成することも社会科においては大切な役割である。「防災・減災」は2015年に「国連持続可能な開発サミット」において採択された「持続可能な開発目標（SDGs）」における「目標11 包摂的で安全かつ強靭（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する」に関わる事項であるため、今後の地域づくりにおいても重要な視点となる。

以上の点を踏まえ、本単元では生徒に「防災・減災」の視点を通して、地方自治について主体的に学び、地域社会へ積極的に参加する姿勢を育成したい。

生徒の実態

本学級の多くの生徒は、授業に積極的に取り組んでいる。挙手をして発表する生徒は多くはないが、教科書や資料集を使って調べたり、情報を引き出したりする活動では素早く情報を参照し、プリントなどに記録したり、まとめたりすることができる。中単元のまとめなどの記述なども約8割の生徒がB基準（おおむね満足できる）の評価であり、そのうち、約半数の生徒がA基準（満足できる）の評価である。

定期テストでは得点率が約7割ある。資料から適切に情報を読み取る力は以前に比べて力を付けつつあるが、社会的事象の因果関係を分析することや、学習内容を踏まえて自分の考えをまとめたり、それを説明したりする発問に対しては、苦手意識をもっている生徒が多い。

本単元ではゲストティーチャーを招くことで、さらに関心を高め、意欲的に学習させ、自分事として学習に取り組むことで、自分の考えを多面的・多角的に表現させたい。

単元の指導

中単元「地方自治と私たち」において、「防災・減災」の取組を通して、学習するために以下のような流れで指導を行う。「防災・減災の取組から、多角的・多面的に地方公共団体の役割について考察し、中学生としてできることを述べることができる」ことを単元のめあてとして、進めるために、「課題の設定」、「情報収集」を繰り返す、めあてに迫るように授業を進めていく。

（1）課題の設定1

平成30年7月豪雨災害において、国や県と熊野町の違いに留意し、熊野町が地方公共団体として、どのような役割を果たしてきたかをまとめることを通して、非常時における地方自治の課題を考察する。

（2）情報の収集1, 2

教科書を活用して、地方公共団体がどのような考え方のもとで、どのような仕組みで地方自治を行っているかを理解する。また、財政や住民参加においてどのような問題点があり、どう克服しつつあるかの学習を通して、理解を深める。

（3）課題の設定2, 情報の収集3

熊野町危機管理課の職員をゲストティーチャーとして招き、熊野町が平時、災害発生時にどのような取組を行っているかを理解する。また、防災マップを使用した図上訓練を行い、避難行動における問題点や日常使用する通学路上で問題がないかを確認する。その上で、中学生として平時、災害発生時にどのような行動をとるべきかを考察する。

（4）課題の設定3, 情報の収集4

防災士をゲストティーチャーとして招き、自宅やその周辺で平時、災害発生時にできることについて理解する。

その上で、中学生として平時、災害発生時にどのような行動をとるべきかを考察する。

（5）考察

情報の収集を通して、得た知識をもとに、防災カードゲーム「クロスロード」を活用して、災害発生時にどのように行動すべきか、さらに中学生としてできることを考察し、まとめる。

（6）まとめ

中学校卒業を前に、活動範囲が町内に多い下級生に向けて、学習した内容を踏まえて、「熊野町 中学生版 防災・減災への提言」をまとめとして作成する。

単元の目標

- 防災・減災の取組から、多角的・多面的に地方公共団体の役割について考察し、中学生としてできることを述べるができる
- 住民自治を基本とする地方自治の考え方や仕組み、地方財政の仕組みについて資料を適切に読み取り、理解できる。【知識及び技能】
 - 自分たちが住む地域の特色や課題について調べ、防災・減災について話し合い、自分の考えをプリントやパフォーマンス課題において表現できる。【思考力、判断力、表現力等】
 - 身近な地方公共団体の防災・減災について意欲的に調べたり、地域住民の一人としてその在り方について考えたりできる。【主体的に学習に取り組む態度等】

単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考、判断、表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度等
<ul style="list-style-type: none"> ① 平成30年7月豪雨災害の被害からの復旧・復興対策を通して、地方公共団体の役割についての知識を身につけている。 ② 地方公共団体の役割や仕組みについての知識を身につけている。 ③ 地方公共団体の財政についての問題点を資料から読み取っている。 ④ 地方公共団体の危機管理の状況について、既習事項と関連付けて理解している。 ⑤ 地域の住民として防災・減災に対する行動についての知識を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 平成30年7月豪雨災害の復旧・復興対策の取組状況からどのような課題があるか考察し、表現している。 ② 地方財政の課題と今後の在り方について、多面的・多角的に考え、その過程や結果を適切に表現している。 ③ 地方公共団体の役割を理解した上で、災害時に中学生のとれる行動を多面的・多角的に考察し、まとめている。 ④ 学習内容や自ら考えたことを、下級生に伝承できるように学習成果を多面的・多角的に表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 身近な地域の政治に関心を持ち、自分も住民の一人として住民自治を担う存在であることに気づいている。 ② 地方公共団体や地域との関わりの中で、中学生としてどのような役割が担えるか、主体的に考えている。 ③ 防災カードゲームを通して、様々な場面を想定し、人々がどのように行動するか意欲的に考えている。

育成しようとする資質・能力の本単元とのかかわり

<p style="text-align: center; font-size: 1.2em; font-weight: bold;">主体性</p>	〈自己管理能力・見通しをもつ力・計画性〉
	〈自ら考え判断する力〉
	①資料をもとに、思考し、自分の考えをまとめて表現することができる。
	〈高い志〉
	②自ら参加して、中学生としてできることを考え、表現することができる。
〈協調性・適応性・コミュニケーション能力〉	
③ゲストティーチャーや仲間の意見を聞き、それらを自分の考えと比較しながら伝えることができる。	
〈粘り強さ〉	
④問いに対する答えを粘り強く追求し、自分の考えをまとめて表現することができる。	
〈情報収集能力・読解力〉	
⑤資料から適切に情報を読み取り、必要な情報を取捨選択できる。	

指導と評価の計画

(全7時間)

次	学習内容 (時数)	評 価				
		知 技	思 判 表	態 度	評価規準 (評価方法)	資質・能力の評価 (評価方法)
一	課題の設定 1 ○平成 30 年 7 月豪雨災害の被害について調べる ・熊野町が災害時やその後によどのような対応をとったか調べる。 ・その対応についての課題を考察する。(1)	○	◎		ア① (観察, プリント) イ① (プリント)	①自ら考え判断する力 (観察, プリント) ⑤情報収集能力・読解力 (観察, プリント)
二	情報の収集 1 ○地方自治の役割と仕組み ・地方公共団体の仕事や地方分権の考え方について理解する。 ・地方自治の仕組みを, 地方議会と首長の役割を中心に理解し, 直接請求権の意義を国民主権の観点から説明する。(1)	○		◎	ア② (プリント) ウ① (プリント)	①自ら考え判断する力 (プリント) ④粘り強さ (プリント)
	情報の収集 2 ○地方財政の仕組みと課題 ・資料から地方財政の歳入と歳出, 地方財政の課題について, 読み取る。 ・地方財政の課題と今後の在り方についてまとめる。(1)	◎		○	ア③ (プリント) イ③ (プリント)	①自ら考え判断する力 (プリント) ⑤情報収集能力・読解力 (プリント)
三	情報の収集 3, 課題の設定 2 ○熊野町の危機管理 ・熊野町危機管理課職員から熊野町の平時, 緊急時の危機管理のあり方を聞き, 理解する。 ○図上訓練 ・防災マップを活用し, 通学路上で被災したときの行動をシミュレーションし, 中学生として行動する際の課題を考える。(1)	○		◎	ア① (観察, プリント) ウ② (観察, プリント)	②高い志 (観察・プリント) ③協調性・適応性・コミュニケーション能力 (観察, プリント)
四	情報の収集 4, 課題の設定 3 ○自助, 共助について ・家庭や近所で行うことができる平時の防災の取組や緊急時の対応について理解する。 ○中学生としてできること ・自助, 共助でできることの説明を聞き, 中学生として平時, 緊急時にできることを考え, まとめる。(1)	○		◎	ア⑤ (観察, プリント) イ③ (観察, プリント)	②高い志 (観察・プリント) ③協調性・適応性・コミュニケーション能力 (観察, プリント)

五	考察 ○防災ゲームを活用し、災害発生時の行動について考察する。 ・災害発生時にどのような行動をとるべきか自分の意見を積極的に述べる。 ・いくつかの想定場面で中学生としてはどのような行動をとると予想し、その理由をまとめる。 (本時1/1)	○	イ③ (観察, プリント) ウ③ (観察, プリント)	①自ら考え判断する力 (観察, プリント) ③協調性・適応性・コミュニケーション能力 (観察, プリント)
六	まとめ ○「熊野町 中学生版 防災・減災への提言」をまとめる。 ・平時や緊急時の中学生のとるべき行動を、学習の成果として下級生に伝承できるようにまとめる。 (1)	○	イ④ (プリント)	②高い志 (プリント) ④粘り強さ (プリント)

本時の学習 (6/7時間)

(1) 本時の目標

災害に備えて、さまざまな場面でどのように行動すべきか、自分の意見を述べることができる

(2) 本時の学習展開

学習活動	指導上の留意事項 (◇) 「努力を要する」状況と判断した生徒への手立て (◆)	評価規準 (評価方法)	資質・能力の評価 (評価方法)
1 導入 (5分)			
○前時までの復習をする。 ・自助・共助・公助についての意味を確認し、それぞれの段階でどのような主体が、どのような取組を行っているか振り返る。 ○本時のめあてを確認する。	◇ゲストティーチャーの授業を振り返り、どのような取組が行われていたか確認する。		
めあて：さまざまな想定場面で、防災や減災のためにどのような行動をとるべきか、自分の考えを述べるができる。			
2 展開1 (20分)			
○防災ゲーム「クロスロード」を通して、災害に関する想定場面の行動について、意見の交換を行う。	(防災ゲームの進め方) ①じゃんけんで最初の人を決める ②問題カードを選び、問題カードを読む ③「多数派の意見」を予想し、手持ちのイエス・ノーカードを選び、裏向きに自分の前に出す。 ④イエス・ノーカードを表に返し、「多数派の意見」だった人は座布団カードを1枚取る。	イ③ (観察) ウ③ (観察)	① (観察) ③ (観察)

	<p>⑤イエス・ノーカードについて、その行動について、これまでの学習を根拠に各自の意見を交流する。</p> <p>◆意見交流が滞っている場合、イエス・ノーカードを出すときにどのような迷いがあり、どのように決断したかなどの意見を促す。</p>		
--	--	--	--

3 展開2 (15分)

<p>○防災カード「クロスロード」の問題カードのうち、グループで印象に残ったカードを1枚選ぶ。その問いのイエス・ノーそれぞれの問題点をグループで話し合いまとめる。</p> <p>○その問いに対して、自分たちはどう行動するか根拠を示しながら発表する。</p>	<p>◇問題カードを選ぶことに意見がまとまらない場合は、イエス・ノーを選ぶ際に、最も迷ったものを選ぶように助言する。</p> <p>◇これまでのワークシートや資料、ゲストティーチャーの話などの根拠をしっかりと示し、発表するように助言する。</p>	<p>イ③ (観察, プリント) ウ③ (観察, プリント)</p>	<p>① (観察, プリント) ③ (観察, プリント)</p>
--	---	--	--------------------------------------

【言語活動の充実】 根拠を示しながら、自分の意見をまとめる

【「概ね満足できる」状況 (B) と判断する根拠】
問題カードについての自分たちの意見を、ゲストティーチャーから学んだことや資料を根拠として明示し、説明している。

【「十分満足できる」状況 (A) と判断する根拠】
問題カードについての自分たちの意見を、ゲストティーチャーから学んだことや資料を根拠として明示し、自らの体験などを踏まえて説明している。

【「配慮を要する」状況 (C) と判断される生徒への手立て】
問題カードの行動についての利点や問題点を整理し、その利点も根拠の例として挙げ、学習した内容と関連づけながらまとめるように助言する。

4 まとめ (10分)

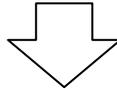
<p>○本時の学習のまとめをする。</p> <p>○学習を振り返り、自己評価を記入する。</p> <p>○次時の学習内容の確認をする。</p>	<p>◇展開2の学習活動を受けて、自分の印象に残った問題を1つ選び、自分の選択する行動を考え、根拠を示しながら、まとめる。</p>	<p>イ③ (プリント) ウ③ (プリント)</p>	<p>① (プリント) ③ (プリント)</p>
---	---	--------------------------------	------------------------------

(3) 板書計画

課題 災害時の行動を選択しよう。

本時のめあて さまざまな想定場面で、防災や減災のためにどのような行動をとるべきか、自分の考えを述べることができる。

カード 001	○助	○助	カード 006	○助	○助
カード 002	○助		カード 007	○助	
カード 003	○助		カード 008	○助	○助
カード 004	○助	○助	カード 009	○助	
カード 005	○助		カード 010	○助	○助



課題 災害時の行動を選択しよう。

本時のめあて さまざまな想定場面で、防災や減災のためにどのような行動をとるべきか、自分の考えを述べることができる。

『自分たちならどう行動する？』

ホワイトボード			